

I 就学・結婚・子育て年代に対するアンケート調査

1. 家庭・結婚に対する考え方

Q3. 理想の家族の住まい方とは

理想の家族の住まい方は、核家族を選んだ人が三世同居を上回っている。

【現在の婚姻状況別】

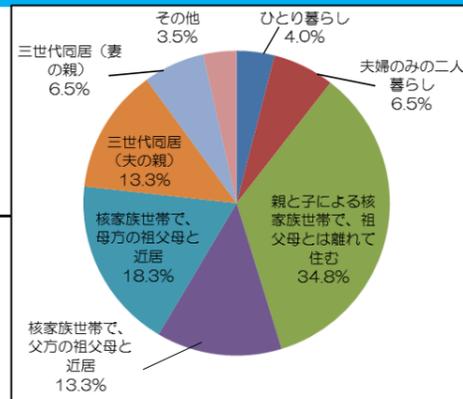
	配偶者なし	配偶者あり	全体
核家族世帯で、祖父母とは離れて住む	45.5%	26.9%	34.8%
核家族世帯で、父方の祖父母と同居	10.3%	15.4%	13.3%
核家族世帯で、母方の祖父母と同居	18.8%	17.9%	18.3%
三世同居（夫の親）	3.6%	20.1%	13.3%
三世同居（妻の親）	2.4%	9.4%	6.5%

- ・「核家族世帯で、祖父母とは離れて住む」を理想とする人の割合は未婚者の方が高い
- ・既婚者では一定の割合の人が「三世同居」を理想としている

【年齢別】

	10代	20代	30代	40代	全体
核家族世帯で、祖父母とは離れて住む	63.2%	37.7%	30.4%	25.0%	34.8%
核家族世帯で、父方の祖父母と同居	3.5%	13.0%	10.4%	20.0%	13.3%
核家族世帯で、母方の祖父母と同居	5.3%	24.7%	22.4%	16.4%	18.3%
三世同居（夫の親）	1.8%	6.5%	16.8%	18.6%	13.3%
三世同居（妻の親）	5.3%	5.2%	8.8%	5.7%	6.5%

- ・10代では6割以上の方が「核家族世帯で、祖父母とは離れて住む」を望んでいる
- ・「核家族世帯で、祖父母とは離れて住む」を望む人の割合は年齢と共に減少
- ・子育て年代では「母方の祖父母と同居」の割合が高く、育児への手助けを期待している



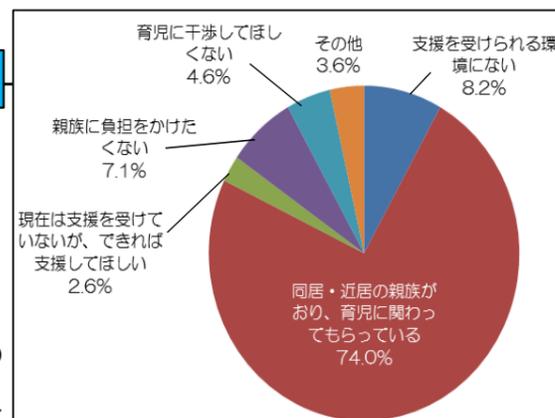
Q19. 親族の育児への関わり方

親族の育児への関わり方では、同居・近居の親族に関わってもらっている人が74.0%。支援を受けられる環境にない人は8.2%。

- ・「支援を受けられる環境にない」の回答率は、現在の子ども数1人の層で高い
- ・「同居・近居の親族がおり、育児に関わってもらっている」の回答率は、すべての子ども数層で高く何らかの形で親族からの協力を得ている人は多い

【現在の子ども数別】

	1人	2人	3人	4人	5人以上	全体
支援を受けられる環境にない	17.3%	4.4%	4.5%	16.7%	0.0%	8.2%
同居・近居の親族がおり、育児に関わってもらっている	76.9%	69.2%	79.5%	66.7%	100.0%	74.0%
親族に負担をかけたくない	1.9%	13.2%	2.3%	0.0%	0.0%	7.1%
育児に干渉してほしくない	1.9%	4.4%	9.1%	0.0%	0.0%	4.6%



Q8. 独身の理由

独身でいる理由については、「仕事または学業に打ち込みたいから」34.8%、「異性と知り合う機会がないから」28%、「結婚の必要性を感じないから」「経済的に余裕がないから」23.8%となっている。

【男女別】

	男	女	全体
結婚の必要性を感じていないから	21.1%	25.8%	23.8%
仕事または学業に打ち込みたいから	26.8%	40.9%	34.8%
独身の自由さや気楽さを失いたくないから	9.9%	24.7%	18.3%
異性と知り合う機会がないから	28.2%	28.0%	28.0%
経済的に余裕がないから	42.3%	9.7%	23.8%

- ・男性は「経済的に余裕がないから」の回答率が最も高い
- ・女性にとって結婚はキャリア形成の妨げになる意識が高い

【年齢別】

	10代	20代	30代	40代	全体
結婚の必要性を感じていないから	24.1%	20.0%	29.7%	25.0%	23.8%
仕事または学業に打ち込みたいから	64.8%	25.0%	13.5%	8.3%	34.8%
独身の自由さや気楽さを失いたくないから	11.1%	21.7%	18.9%	25.0%	18.3%
異性と知り合う機会がないから	20.4%	28.3%	35.1%	41.7%	28.0%
経済的に余裕がないから	13.0%	30.0%	24.3%	41.7%	23.8%

- ・20代では「経済的に余裕がない」の回答率が最も高い
- ・年齢を重ねるほど「異性と知り合う機会がないから」の回答率が高くなり、各年代に合った出会いの場の創出が求められる

2. 出産・子育てに対する考え方

Q16. 理想の子ども数を持つのが難しい理由

理想の子ども数を持つのが難しい理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎる」50.3%、「高齢出産となり不安だから」29.1%、「育児の心理的・肉体的負担が大きい」19.1%となっている。

【出産希望パターン別】

	現在0人 理想1人以上	現在1人 理想2人以上	現在2人 理想3人以上	現在のままで よい・その他	全体
子育てや教育にお金がかかりすぎる	25.9%	53.1%	64.6%	14.3%	50.3%
自分の仕事に差し支える	14.8%	21.9%	20.8%	0.0%	14.1%
高齢出産となり不安だから	29.6%	40.6%	45.8%	85.7%	29.1%
健康上の理由	11.1%	12.5%	6.3%	28.6%	11.1%
育児の心理的・肉体的負担が大きい	11.1%	18.8%	29.2%	14.3%	19.1%
子どもは欲しいが授からない	59.3%	28.1%	2.1%	42.9%	17.1%
定年退職までに成人してほしい	3.7%	6.3%	10.4%	28.6%	5.0%

◆一人目の子を持つことが難しい理由

- ・「子どもは欲しいが授からない」「高齢出産となり不安」が多く挙げられていることから晩婚化が大きな原因であると考えられる
- ・この層の対策としては晩婚化を防ぐための結婚支援等の充実が求められる

◆二人目以降の子を持つことが難しい理由

- ・「子育てや教育にお金がかかりすぎる」「高齢出産となり不安」が多く挙げられる
- ・三人目以降では「育児の心理的・肉体的負担が大きい」の割合が高いことが特徴
- ・この層の対策としては子育てや教育にかかるコストの低減、育児の心理的・肉体的負担を軽減するサポート体制の充実が求められる

I 就学・結婚・子育て年代に対するアンケート調査

2. 出産・子育てに対する考え方

Q17. 理想の子ども数に近づくために必要なこと

理想の子ども数に近づくために必要なこととして「職場における理解や支援」39.8%、「その他の子育て・教育費用の負担軽減」34.4%、「家事・育児に関する家族等の支援」33.5%となっている。

【現在の婚姻状況別】

	配偶者なし	配偶者あり	全体
家事・育児に関する家族等の支え	30.3%	35.9%	33.5%
職場における理解や支援	42.1%	38.3%	39.8%
待機せずに入所できる保育所の整備	25.5%	19.4%	22.2%
出産費用の負担軽減措置	21.4%	18.0%	19.3%
その他の子育て・教育費用の負担軽減	24.8%	41.3%	34.4%

- ・配偶者なしの方については「職場における理解や支援」の回答率が高い
- ・配偶者ありの方については「その他の子育て・教育費用の軽減負担」回答率が高い

【出産希望パターン別】

	現在0人 理想1人以上	現在1人 理想2人以上	現在2人 理想3人以上	現在のままで よい・その他	全体
家事・育児に関する家族等の支え	31.0%	33.3%	32.6%	40.4%	33.5%
職場における理解や支援	27.6%	31.0%	37.0%	46.1%	39.8%
待機せずに入所できる保育所の整備	13.8%	31.0%	19.6%	15.7%	22.2%
出産費用の負担軽減措置	34.5%	21.4%	15.2%	12.4%	19.3%
その他の子育て・教育費用の負担軽減	27.6%	38.1%	58.7%	38.2%	34.4%

- ・まだ子どもを持っていない人は「子どもを欲しいが授からない」ことをQ16の理由として挙げており、不妊治療等の出産費用等の負担軽減支援が求められている

Q20. 子育てに関する悩み・不安

子育て中の人の悩みや不安については「教育費等の経済的な問題」79.8%と圧倒的に多くっており、以下「子どもの学校生活や交友関係」22.3%、「環境汚染や食品の安全性が心配」21.2%となっている。

【男女別】

	男	女	全体
教育費等の経済的な問題	81.8%	78.7%	79.8%
部屋が狭い、部屋数が少ないなど住宅問題	18.2%	18.9%	18.7%
子どもの学校生活や交友関係	19.7%	23.6%	22.3%
緊急時等子どもを預けられるところがない	15.2%	15.7%	15.5%
環境汚染や食品の安全性が心配	19.7%	22.0%	21.2%

- ・男女共に「教育費等の経済的な問題」を悩みや不安として挙げている
- ・「子どもの学校生活や交友関係」、「環境汚染や食品の安全性が心配」については女性の方が不安に思っている割合が高い

【第1子の年代別】

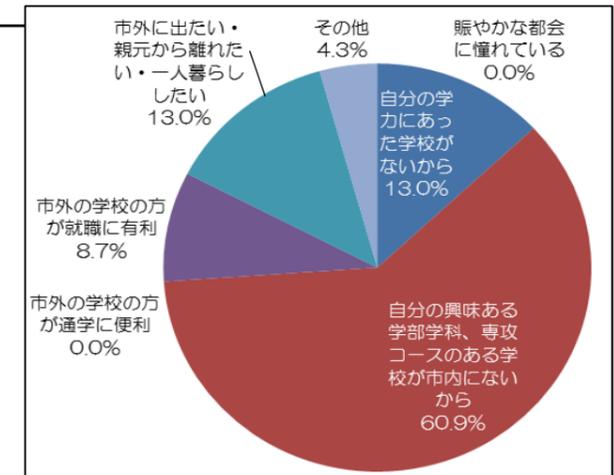
	未就学	義務教育	高校生以上	全体
教育費等の経済的な問題	76.7%	77.8%	84.1%	79.8%
部屋が狭い、部屋数が少ないなど住宅問題	23.3%	21.0%	13.0%	18.7%
子どもの学校生活や交友関係	16.3%	28.4%	18.8%	22.3%
緊急時等子どもを預けられるところがない	20.9%	14.8%	13.0%	15.5%
環境汚染や食品の安全性が心配	23.3%	22.2%	18.8%	21.2%

- ・第1子の年代が高いほど「教育費等の経済的な問題」を不安に思っている割合が高い
- ・第1子が義務教育年代では「子どもの学校生活や交友関係」を挙げている割合が高い

3. 学業・しごとについて

Q26. 市外に進学希望する理由

市外への進学を希望する理由は「自分の興味のある学部学科等のある学校が市内にない」が最も多く60.9%となっている。次いで「自分の学力にあった学校がなから」が13%となっている。



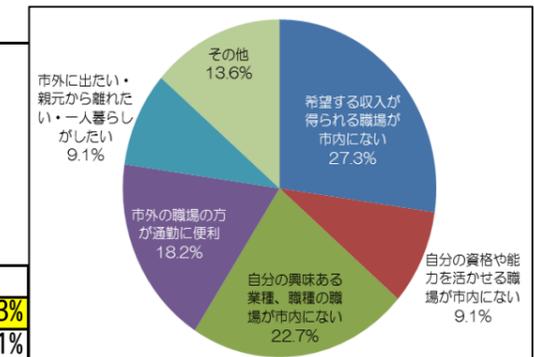
【男女別】

	男	女	全体
自分の学力にあった学校がないから	25.0%	0.0%	13.0%
自分の興味のある学部学科、専攻コースのある学校が市内にないから	41.7%	81.8%	60.9%
市外の学校の方が就職に有利	8.3%	9.1%	8.7%
市外に出たい・親元から離れたい・一人暮らししたい	25.0%	0.0%	13.0%

- ・男性は女性に比べて、「自分の学力にあった学校がない」「市外に出たい・親元から離れたい・一人暮らししたい」を市外への進学理由に挙げる割合が高い

Q30. 市外で働きたい理由

市外での就業を望んでいる人はその理由として「希望する収入を得られる職場が市内にない」27.3%、「興味のある業種、職種の職場が市内にない」22.7%となっている。



【在学中・既卒別】

	在学中	既卒	全体
希望する収入が得られる職場が市内にない	25.0%	30.0%	27.3%
自分の資格や能力を活かせる職場が市内にない	16.7%	0.0%	9.1%
自分の興味のある業種、職種の職場が市内にない	33.3%	10.0%	22.7%
市外の職場の方が通勤に便利	16.7%	20.0%	18.2%

- ・在学中の人が「自分の資格や能力を活かせる職場が市内にない」「自分の興味のある業種、職種の職場が市内にない」と回答している割合が高い

Q32. Uターンに必要なこと

市内や周辺に働きやすい職場が増えること	28.6%
勤務先からの通勤費補助・家賃補助	14.3%
公共交通が充実し、通勤・通学がしやすくなること	21.4%
教育機関が多様化し、進学先の選択肢の幅が広がること	14.3%

- ・郡山市へ戻る条件として「市内や周辺に働きやすい職場が増えること」が約3割「公共交通が充実し、通勤・通学がしやすくなること」が約2割となっている。

II 転入者アンケート調査

Q12. 転入の理由

転入の理由として「自分の就職・転職のため」33.3%、「自分の転勤のため」「結婚のため」「出身地だから」17.8%となっている。

【男女別】

	男	女	全体
自分の就職・転職のため	43.5%	22.7%	33.3%
自分の転勤のため	26.1%	9.1%	17.8%
配偶者の就職・転勤のため	4.3%	9.1%	6.7%
配偶者の転勤のため	0.0%	13.6%	6.7%
結婚のため	4.3%	31.8%	17.8%
出身地だから	13.0%	22.7%	17.8%

- ・男性は「自分の就職・転職のため」という回答が大半
- ・女性は「結婚のため」が約3割となっている

【これまでの郡山市での居住経験の有無別】

	ある	ない	全体
自分の就職・転職のため	40.0%	25.0%	33.3%
自分の転勤のため	16.0%	20.0%	17.8%
配偶者の就職・転勤のため	8.0%	5.0%	6.7%
配偶者の転勤のため	4.0%	10.0%	6.7%
結婚のため	8.0%	30.0%	17.8%
出身地だから	32.0%	0.0%	17.8%

- ・「就職・転職」に関しては、郡山市に住んだことのある人の割合が高く、もともと地縁のある人が就職等を機に郡山市に転入するケースが多い

Q16. 郡山市に住んでみてよかった点

住んでみてよかった点として「買い物などの利便性」36.4%、「東京・仙台との時間距離の近さ」29.5%、「公共交通機関の利便性」「特になし」22.7%となっている。

【男女別】

	男	女	全体
自然の豊かさ	26.1%	9.5%	18.2%
東京・仙台との時間距離の近さ	21.7%	38.1%	29.5%
公共交通機関の利便性	21.7%	23.8%	22.7%
買い物などの利便性	30.4%	42.9%	36.4%
子育て環境	17.4%	4.8%	11.4%
特になし	17.4%	28.6%	22.7%

- ・男女共に「買い物などの利便性」を高く評価
- ・次いで評価が高いのは、男性は「自然の豊かさ」となり、女性は「東京・仙台との時間距離の近さ」となっている

【年齢別】

	10代	20代	30代	40代	全体
自然の豊かさ	66.7%	15.0%	13.3%	16.7%	18.2%
東京・仙台との時間距離の近さ	33.3%	35.0%	26.7%	16.7%	29.5%
公共交通機関の利便性	66.7%	15.0%	26.7%	16.7%	22.7%
買い物などの利便性	33.3%	40.0%	33.3%	33.3%	36.4%
子育て環境	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	11.4%
特になし	0.0%	25.0%	13.3%	50.0%	22.7%

- ・転入者の多い20代と30代では、「買い物などの利便性」の評価が高い
- ・30代では同率で「子育て環境」が高評価となっている
- ・「東京・仙台との時間距離の近さ」は20代の方が高評価となっている

III 転出者アンケート調査

Q12. 転出の理由

転出の理由として「自分の就職・転職のため」38.4%、「自分の転勤のため」21.9%、「結婚のため」13.7%となっている。

【男女別】

	男	女	全体
自分の就職・転職のため	51.4%	26.3%	38.4%
自分の転勤のため	31.4%	13.2%	21.9%
配偶者の就職・転勤のため	0.0%	13.2%	6.8%
配偶者の転勤のため	2.9%	5.3%	4.1%
自分または配偶者の進学のため	5.7%	15.8%	11.0%
結婚のため	2.9%	23.7%	13.7%

- ・男女共に「自分の就職・転職のため」が最も多かった
- ・次いで多いのは、男性が「自分の転勤のため」、女性は「結婚のため」となっている

【年齢別】

	10代	20代	30代	40代	全体
自分の就職・転職のため	0.0%	53.6%	39.1%	23.5%	38.4%
自分の転勤のため	20.0%	10.7%	17.4%	47.1%	21.9%
配偶者の就職・転勤のため	0.0%	3.6%	8.7%	11.8%	6.8%
配偶者の転勤のため	0.0%	7.1%	0.0%	5.9%	4.1%
自分または配偶者の進学のため	80.0%	10.7%	4.3%	0.0%	11.0%
結婚のため	0.0%	17.9%	21.7%	0.0%	13.7%

- ・20代では半数以上の人々が「自分の就職・転職のため」となっている
- ・30代では「自分の就職・転職のため」が約4割にとどまり、「結婚のため」「自分の転勤のため」が約2割となる

Q17. 郡山市に住んでいて不満だったこと

郡山市に住んでいて不満だったこととして「都市的な利便性」「レジャー施設等の余暇活動の場」29.2%、「特になし」27.8%となっている。

【男女別】

	男	女	全体
周辺の生活環境、雰囲気、治安等	14.7%	15.8%	15.3%
都市的な利便性	44.1%	15.8%	29.2%
仕事の見つけやすさ	20.6%	15.8%	18.1%
地域の文化の洗練度	14.7%	2.6%	8.3%
レジャー施設等の余暇活動の場	35.3%	23.7%	29.2%
特になし	14.7%	39.5%	27.8%

- ・男性は「都市的な利便性」等幅広い項目において不満だと感じている
- ・女性は「特になし」と回答した割合が最も高い

【年齢別】

	10代	20代	30代	40代	全体
周辺の生活環境、雰囲気、治安等	0.0%	21.4%	13.6%	11.8%	15.3%
都市的な利便性	0.0%	42.9%	22.7%	23.5%	29.2%
仕事の見つけやすさ	0.0%	25.0%	13.6%	17.6%	18.1%
地域の文化の洗練度	0.0%	3.6%	13.6%	11.8%	8.3%
レジャー施設等の余暇活動の場	20.0%	35.7%	27.3%	23.5%	29.2%
特になし	80.0%	28.6%	18.2%	23.5%	27.8%

- ・20代では「都市的な利便性」に対する不満が最も多く挙げられた
- ・子育て世代である30代では「レジャー施設等の余暇活動の場」に対する不満が最も多く挙げられた